



第71号

港北区スポーツ推進委員
連絡協議会広報誌

活き生き スポ進

KOHOKU

令和4年1月 発行
発行者
港北区スポーツ推進委員連絡協議会
編集
港北区スポーツ推進委員広報委員会
事務局
横浜市港北区大豆戸町26-1
横浜市港北区役所地域振興課内
電話 045-540-2238
FAX 045-540-2245

2021ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会 5月15日

新型コロナウイルスの感染拡大により、つい先日まで緊急事態宣言が発せられておりましたが、直前に解除され、2年ぶりに「ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」が開催されました。数々のスポーツイベントが延期・中止される中、感染防止対策に万全を期して取り組みました。私達スポ進は、出場選手から感謝の声を受け取りながら、レースにおける安全対策に従事しました。 城郷地区 荒木 和也



第33期港北区スポーツ推進委員 新任者研修 6月20日



令和3年度新任者研修会に参加してきました。今年は、港北区役所の会議室で開催され、ベタンクとグラウンドゴルフの審判技術の研修を実際にプレイしながら行いました。

どちらもとても簡単な競技で、誰でも楽しめるスポーツだなと思いました。こうしたスポーツを通して地域の皆様と日々の生活での絆を深められるお手伝いをしていきたいなと思いました。 高田地区 吉光 成

オンラインラジオ体操 8月9日

新型コロナウイルス感染症により地域でのラジオ体操の実施が難しくなっているなか、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科と港北区で実施する「港北オンラインラジオ体操2021夏」に8月9日(月・祝)にゲスト出演しました。夏の風物詩のラジオ体操をオンラインで、区内のたくさん子どもたちと一つになって行い、オンラインならではの地域交流・活性化を図りました。

大曾根地区 大島 康孝 / 大倉山地区 高山 一弘



毎日
600人以上が参加

2021ふるさと港北ふれあいまつりon-line 11月6日~21日



動画のURLは
こちら



新型コロナウイルスの影響から、2年連続でオンライン開催となったふるさと港北ふれあいまつりですが、今年は高田地区で新任委員向けに開催したペタンク研修の動画を掲載しました。撮影当日は天気に恵まれ、好プレーも続出しました。

動画を通じて地域の皆様にペタンクの面白さや奥深さを伝えながらも、早くコロナ禍が明けて、リアルでの大会開催ができる日が来てくれればと思っています。

高田地区 飯田 司



港北区スポーツ推進委員活動紹介 vol.1

※委嘱人数は令和3年
11月末時点



新羽地区

委嘱人数：8人

新羽地区は、南側から東側の2辺に鶴見川が流れ、西側は緑が多く残る丘陵地帯で農業が豊かに営まれています。平成5年には横浜市営地下鉄が開通し、街の中心部には新羽駅が、南部にも北新横浜駅があります。駅周辺には買い物に便利な大型スーパーがあり、横浜や東京、新幹線を利用して地方へ出向くにも大変便利な土地柄です。

新羽地区では、一年を通して、スポーツ推進委員が主催、実行委員を務めて、ペタンク、新羽サマーフェスティバル、インディアカ、健民祭、グラウンドゴルフ、駅伝大会、少年少女スポーツ大会(キックベースボール・室内ペタンク)など開催しています。

毎回たくさんの方々に参加頂き、地域の方々のつながりを大切に安心して暮らせる顔の見える地域の創造に寄与しています。



大倉山地区

委嘱人数：13人



大倉山地区は、スポーツ活動が盛んな地域で、コロナ対策を考慮し実施計画を作成しました。

5月のソフトボール大会は参加者が多く、感染防止対策の観点から開催を断念、7月のペタンク大会は雨の為中止、10月の健民祭は感染防止対策が取れる種目(ペタンクとグラウンドゴルフ)に変更しましたが雨の為中止。

唯一実施できたのが7月と11月のグラウンドゴルフ大会だけでした。港北区大会の予選も兼ねており、精鋭チームの選抜ができました。残すは2月に予定されているソフトバレーボール大会のみです。

樽町地区

委嘱人数：9人



樽町地区は、ベテランから若手ホープ合わせて9人で活動しています。グラウンドゴルフ・ペタンク大会の他、年間を通して地域行事、子ども会行事を青少年指導員の人たちと一緒にサポートしています。

「たるまちLINE掲示板」を利用し、地域のさまざまな活動の情報を共有し知ることができま

す。また樽町地区には、樽町公園があり、グラウンドゴルフの練習ができる環境に恵まれており、日々腕を磨いています。

11月7日(日)「グラウンドゴルフ交流会」を感染防止対策を徹底し開催しました。13チームが参加し、楽しい交流会となりました。



城郷地区

委嘱人数：15人

城郷地区では、春先に開催される「小机城址まつり」において、戦国武将の鎧兜の衣装を身に付けて、武者行列に従事するなど、スポーツ活動に限らない特色のあるイベントの一役を担っております。

また、秋に開催する「歩け歩け大会」において、地区の老若男女と一緒に会場まで歩いて、みかん狩りを楽しむスポーツイベントも開催しております。

地区委員は、殆ど現役世代の若者が中心ですが、お互いに協力して、楽しんで各種活動に従事しております。



菊名地区

委嘱人数：10人

菊名地区では、2020年度「横浜元気！スポーツ・レクリエーションフェスティバル」の企画の一つとして港北スポーツセンターにてニュースポーツ体験会が開催されました。スタッフとしてスポーツ推進委員会菊名地区とさわやかスポーツ普及委員会が参加しました。延べ100名を超える参加者へルール説明や案内を行い、上手にできたときには喜びを共感し、失敗したときにもポジティブなアドバイスを送るなど、皆と笑顔で楽しめました。

コロナ禍で開催できるイベントには限りはありますが、地域と連携することでこのような活動ができることは大変うれしく思います。



港北区スポーツ推進委員連絡協議会 小松 賢吉会長のインタビューが「みんなのスポーツ8・9月合併号」に掲載されました。

「障がい者スポーツを学ぶ3 私とスポーツ番外編」の特集の中で、地域活動に関わるきっかけ、スポーツ推進委員のやりがい、そして、共生社会についてのインタビューを掲載していただきました。

【スポーツ推進委員になったきっかけ】

36歳までは地域活動には全く無縁でした。平成7(1995)年1月に「阪神淡路大震災」が、3月に「地下鉄サリン事件」が発生しました。この二つの出来事から、ご近所や地域の助け合いが「命を繋いでいる、ことや、親の目の届かないところで子どもたちの安全を守ることができるのは、地域の住民の目でありつながらりだと感じたことが、地域活動に関わるきっかけになりました。

【スポーツ推進委員のやりがい】

地域で皆が顔見知りになれば、それだけで安心な気持ちになれます。安心して暮らせる地域は、その場所に住んでいる人たちが自ら顔の見える地域を創造することでしか確保することができません。私たちスポーツ推進委員がスポーツを推進することは、「人と人の出会いを創造すること」でもあります。

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法で非常勤の公務員として規定されており、公務員としての職務であることを常に忘れることなく、安全に配慮しつつ何事も公平かつ俯瞰的に考え誇りをもって活動しています。

【共生社会とは】

健常者と障がい者の共生社会とは、車いすで移動するのに時間を要したとしても、手が不自由で書類に署名することができなくても、顔面麻痺があっても笑顔を作ることができなくても、耳が聞こえなくて筆談で伝えるために重要な会議が中断することがあっても、そのことに違和感を覚えることがなく、必要な手助けや支援についても、「特別に対応している」といった意識や感覚がない風土だと思います。

障がい者が主張すべきは保護や権利ではなく、「できない自分、できる自分」といった「ありのままの自分」「ありのままの生き様」を社会にさらけ出すこと。社会一般にその境遇を理解していただき、一般社会の一員として協調していくことで、共生社会が築かれていくのではないのでしょうか。理想は「共生」そのものが意識されない社会です。



小松賢吉 さん 62歳
横浜市スポーツ推進委員連絡協議会会長
港北区スポーツ推進委員連絡協議会会長

これほどまでに取材に協力的な方は、後にも先にも出てこないと思えるほど、用意周到に取材に臨んでくださった小松会長。インタビューの文字数は1万字にも上り、私たちが知りたい障がいのある方の「本音」や「共生社会」について具体的にどんな社会なのか、ご自身の言葉で語り尽くしていただきました。

障がい者
スポーツを
学ぶ3
私とスポーツ
番外編

「共生」という言葉すら意識しない
自然な共生社会を育んでいきたい



横浜アリーナでのイベントで
ポッチャ普及活動に協力

合間を縫って記録写真を撮影

地元スポーツ大会での表彰式の一コマ



【共生社会の実現に向けてスポーツ推進委員としてできること】

競争を前提とするスポーツの世界でも、オリンピックとパラリンピックを別々に実施するのではなく、健常者、障がい者が同じ大会、同じ土俵で共に競うことができれば互いの理解も深まり、自然な共生社会が育まれるのではないのでしょうか。しかし、残念ながら、互いを知り理解する環境、場がまだまだ少ない状況です。私たち港北区スポーツ推進委員が主催する大会において、障がいを持つ方にもっと自由に参加していただける機運を作っていくことができればと思います。互いを知ることこそが、共生社会の礎です。

インタビューは
こちらに掲載されて
います。



みんなのスポーツとは…

公益財団法人全国スポーツ推進委員連合の機関誌として、全国のスポーツ推進委員の活動を取り上げている雑誌です。